



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより No.7
平成 29 年 10 月 12 日

共に生きる社会

校長 竹内 康裕

ふとしたきっかけで、昔の新聞の投書を思い出しました。

あるご老人が、お休みの日に小学生の知的障害のあるお孫さんを遊園地に連れて行きました。そのお孫さんは乗り物に乗ろうとはしません。車椅子のままご老人と園内を散歩していたそうです。

ある場所で、幼児用の乗り物の汽車が音楽を鳴らしながら二人のそばを走り抜けました。汽車が大好きなお孫さんは大喜びで、そこを離れようとせずに次の汽車を待ち続けます。汽車は乗りたい人がお金を入れると走る仕組みになっています。幼児用の簡単なものなので、なかなか次の利用者は現れません。お孫さんは「もう一回、もう一回」とせがみますが、自分は乗ろうとしません。ご老人は仕方なく料金を入れて無人のまま汽車を走らせました。

そこに数人の中学生が通りかかりました。そのお孫さんとご老人の様子を見ていた彼らは、何やら相談をし、ジャンケンを始めました。やがてその中の一人が、「何だ、オレかよ」と照れながらみんなで出し合ったお金を投入して幼児用の汽車に乗って、お孫さんを喜ばせてくれたそうです。

投書の続きには、この中学生たちの優しさがとてもうれしかったと書かれてありました。そして、「本当にありがとう。その優しさをすべての人々に分けてあげてください。幸せな一日でした。」(毎日新聞より)と結ばれていました。

通りかかって、その様子を見て心が動き、自分たちができることを考え、すぐに実行したその中学生たちの優しさに心が温まりました。彼らの中には中学生が幼児用の遊具に乗るというアンバランスを遊ぶ感覚もあったのかも知れませんが、周りで見っていた仲間たちの反応は二人を気遣ったものであったということからも、気持ちの良い雰囲気だったのでしょう。照れながらも笑顔の中学生、喜ぶお孫さん、感謝でいっぱいのご老人、その瞬間はとても優しく大切な時間であったことでしょう。このような考え方・行動力をもつ人達が増えれば、障害のある方々や高齢の方々、また、様々な事情とともに生活をしている方々などと、全ての人達が手を携え、もっともっと幸せに暮らせるのだらうと思いました。

先日ある講演会で、目の見えない方のお話を聴きました。嬉しいことの一つとして、駅などで「どういうお手伝いをしましょうか」などの声をかけてもらい、手伝ってもらえることだそうです。手伝ってもらえることも嬉しいけれど、そう申し出てくれたその人の心の優しさがもっと嬉しいのだそうです。

共生社会という意識は社会の成熟と共に着実に浸透しつつあります。色々な立場の方々や様々な事情のある方々と共に幸せに暮らせる社会は最高です。私たち全ての幸せのために、今自分ができることは何かを考え、それぞれがそれぞれの立場や場所でできることを大切にしたいと思います。



■ □ 道徳授業地区公開講座 ■ □

10月7日（土）の道徳授業地区公開講座では、2校時に全クラスで道徳の授業を行いました。学校で行う道徳教育は転換しつつあります。数年前から多発するいじめ問題などを背景に道徳教育の改善が議論されてきました。現行の「道徳の時間」が平成31年度から「特別の教科 道徳」として教科化されることはご存知の方も多いと思います。以前の道徳の授業では、特定の価値観を教員が教え込む（躡ける）ようなスタイルが主流を占めていた時期もありましたが、これからは、自分と違った考え方や多様な価値観について、深く考え、議論すること、その過程や向き合う姿勢が大切であるとされています。それに伴い、授業のスタイルも少しずつ変わってきています。また、道徳教育は学校教育のすべての場面で行われるものであり、他の教科や諸活動の場面でも大切にしています。今後、教員もさらに研修を深め、よい道徳の授業を実践していきたいと思えます。

道徳授業地区公開講座にお越しになれなかった保護者の皆様のために、当日の道徳の授業の概要をお伝えします。それぞれの資料の中の主人公の心が変化していく過程でいくつかの価値観（何が大切なのかということ）が生まれます。そして、話し合うことで自分と違った価値観があることにも気づきます。さらに話し合い、考え、時にはぶつかることによって、自分の考えが変化したり、深まったりするのです。特に子供たちは、友情という価値観に揺れ動きます。

以下の資料の中の主人公の心が変化していく過程で、どんな価値観が考えられますか。

<価値観の例>

自主、自律、自由と責任、節度、節制、向上心、個性の伸長、
希望と勇気、強い意志、創造、思いやり、感謝、礼儀、友情、
信頼、寛容、遵法精神、公德心、公正、公平、公共の精神、
勤労、家族愛、集団生活の充実、生命尊重、よりよく生きる喜び

【第1学年】 資料：「君が生まれた日」

今まで自分のことよりも仕事の方が大事だと思い、母親に関わられるのをわずらわしく感じていた主人公は、自分の怪我を心配している母親に辛く当たってしまう。しかし、たまたま母親の同級生だった助産師に自分が生れた日の話を聞き、母親の自分に対する愛情の大きさに初めて気付く。さっきまで母親に対する不満と寂しさに包まれていた主人公が、それまで気付かなかった母親の自分に対する愛情を少しずつ知ることによって、主人公の心が変化していく。



【第2学年】 資料：「弘樹の判断」

移動教室の夜、友達がルールを破って持ち込んだ携帯音楽プレーヤーを一緒に聞こうという誘いに対して、主人公はそれを止めずに曖昧な態度をとってしまう。結局は友達だけが先生に見つかって部屋の外に連れ出される。翌日、友達から先生に厳しく指導されたことについて告げられる。友達にルール違反を誘われてから、自分のすぐ側で友達が違反を先生に見つかり、厳しく指導されたことを知らされる中で、主人公の心が変化していく。



【第3学年】 資料：「万引き」

友達に万引きに行こうと誘われ、主人公は悪いとわかっていながらもなんとなく断り切れずに万引きをしてしまう。結局、主人公は万引きを店員に見つかり、警察に連行され、警察に迎えに来た母親にきつく叱られる。帰る途中はずっと無言だった母親が家に着くなり泣き崩れてしまう。万引きを誘われてから、実際に万引きをしてしまい、警察に連行され、母親の悲しむ姿を目の当たりにし、自分がどうなるのかわからない困惑の中で、主人公の心が変化していく。



■□ 子育て特別講演(研修)会 ■□

演題 『安心感を育む子育て・指導～コーチングの視点から～』

講師 斉藤知江子 先生 (国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ)

道徳の授業の後、学年ごとの意見交換会に続いて子育てをテーマとした特別講演会を開催しました。以下はお話の概要です。

コーチングとは、相手が自分本来の力を自分らしく発揮することをサポートするコミュニケーションであり、その土台となっているのが「聴く」ことです。それも相手の話を、言葉になっていること、言葉になっていないこと、大切にしていること、背景にある気持ちなど、全てを聴こうとすることです。というお話の後、保護者や地域の皆様、教員が混ぜこぜになって二人一組になり、「聴くこと」のワークを行いました。感じの良い聴き方(にこやか、うなづく、目を見るなど)をしてもらおうと、話し手も笑顔になり、話が進んでいきました。感じの良い聴き方の効果を「ラポール(架け橋)」といいます。コミュニケーションではとても大切で、相手に安心感を与えるものです。大人も子供も「不安」になることが多い毎日だとは思いますが、少しでも「安心」から子育てがスタートできたらいいですね。

わずかな時間でしたが、参加した保護者や地域の皆様、教員がみんな笑顔にあふれ、心地よい気分になりました。笑顔のパワーを実感しました。笑顔のあふれる十中学区にしましょう。



■□ アスリート講演会 ■

演題 『フリースタイルスキー』

講師 津田健太朗 選手

(2014年冬季五輪ハーフパイプ日本代表)

9月29日(金)に、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、オリンピックを講師としてお招きしてアスリート講演会を開催しました。フリースタイルスキー・ハーフパイプ競技の説明とその魅力、オリンピック出場までの苦労とその中で感じたことや手に入れたもの、指導者としての平昌オリンピックに向けての目標などについて、映像を交えながらお話をいただきました。スポーツの頂点ともいえるオリンピックを経験した津田選手の言葉はどれもとても心に響くものでした。また、少し前に池田先生が事前学習を行ってくれたおかげで、スキーに馴染みのない人でも理解を深めることができたのではないのでしょうか。

自分を支えてくれたたくさんの人に感謝し、それをまたエネルギーにして努力してきた様子がよく分かりました。そして、やはり目の前の目標に向かって弛まない努力をすることが何よりも大切であることを誰もが実感していたことと思います。

オリンピックに関していえば「努力していればいつかはきっと…」はないでしょう。気力にも体力にも限界があります。チャンスもいつもあるわけではありません。

「決められた期間の中で全力を尽くす」

オリンピックなど高い目標を目指すということは並大抵の努力ではないということです。

それでも、原点は「何かをやってみよう」ということ。そこから「やってみよう」と一歩踏み出すことが始まりです。始まりは皆同じです。

今回お話しいただいたことを、これからの生活や人生に生かして行ってほしいと思います。



■□ 府中五小運動会ボランティア ■□

9月30日(土)絶好の運動会日和の中で府中第五小学校の運動会が行われ、そこにボランティアで13名の十中生が参加しました。運動会が始まる前の低学年児童の椅子の整理から始まり、開会式に参加しました。競技や演技が始まってからは、児童席で子供たちのお世話をしました。トイレに行きたい子、水を飲みたい子、体調が悪い子など、困っている子を見つけると優しく声をかけ、先生の所に連れて行ってあげていました。いろいろな場面で気を配って積極的に動いていましたが何と云っても後片付けが素晴らしかったです。もともと十中のテントを貸し出していることもあって、テントの撤収・収納・運搬では十中生ボランティアが活躍していました。また、ボランティアには登録していなかった十中生や卒業生もたくさん手伝っていました。母校愛の現れです。

五小の校長先生、副校長先生をはじめ、たくさんの先生方から感謝とお褒めの言葉をいただきました。本当にご苦労様でした。

やはり、ボランティア活動は十中の誇りですね。



■□ 東京都体力向上努力月間 ■□

1学期に実施した『体力・運動能力調査』の結果についてお知らせします。全般的な傾向としては、男女とも筋力、筋持久力が、都の平均よりも低い傾向にあります。女子はそれ以外の体力についてはほとんどが都の平均を上回っています。全身持久力、瞬発力は高い値を示しています。男子については残念ながら都の平均を下回っている体力が目立ち、敏しょう性が特に低いです。

10月は「東京都体力向上月間」となっています。本校では、体力調査の結果を受けて、男子はハンドボール投げと50m走(1年)・反復横とび(2年)・上体起こし(3年)、女子は握力と上体起こしを強化種目として、保健体育の授業を中心に体力アップを目標に取り組みます。そして11月になったら、それぞれの強化種目については再度測定します。個人票も配付されているので、この機会に自分の課題を見つけて、学校外でも体力向上を図ってみてください。

学年男女	握力 kg [筋力]	上体起こし 回 [筋持久力]	長座体前屈 cm [柔軟性]	反復横とび 回 [敏しょう性]	持久走 分秒 [全身持久力]	20mシャトルラン 回 [全身持久力]	50m走 秒 [スピード]	立ち幅とび cm [瞬発力]	ハンドボール投 m [瞬発力・巧み性]
1年男子	▲21.9 (23.4)	▲23.7 (24.2)	◎39.5 (38.1)	▲45.4 (49.2)	○7'09" (7'05")	◎72.9 (69.4)	▲8.6 (8.5)	◎182.8 (177.4)	○17.9 (17.5)
2年男子	◎29.7 (28.6)	▲26.0 (27.6)	○42.1 (42.2)	▲48.3 (52.4)	○6'21" (6'25")	○84.6 (83.2)	◎7.8 (7.9)	◎202.2 (194.2)	○20.6 (20.3)
3年男子	▲31.4 (33.7)	▲29.2 (29.8)	○45.6 (45.6)	▲51.2 (55.0)	▲6'24" (6'14")	▲83.9 (90.7)	○7.6 (7.6)	○208.2 (208.6)	▲21.1 (22.9)
1年女子	▲20.9 (21.5)	▲20.9 (21.8)	◎46.1 (42.6)	○45.7 (45.8)	◎4'54" (5'01")	◎58.6 (52.3)	▲9.2 (9.0)	◎171.2 (163.6)	○11.3 (11.1)
2年女子	▲23.1 (23.5)	▲22.8 (24.1)	◎48.4 (44.9)	◎48.4 (47.1)	○4'43" (4'46")	◎59.9 (57.5)	◎8.7 (8.8)	◎172.7 (168.3)	◎13.4 (12.5)
3年女子	▲23.9 (24.7)	○24.8 (24.9)	▲45.7 (46.5)	◎48.4 (47.6)	◎4'40" (4'49")	◎60.5 (57.3)	◎8.6 (8.7)	◎178.5 (170.1)	○13.7 (13.3)

※数値は各学年男女別の平均値。()内は東京都の平均値。

※東京都の平均値と比較し、上回っている◎、ほぼ同じである○、下回っている▲として示しています。